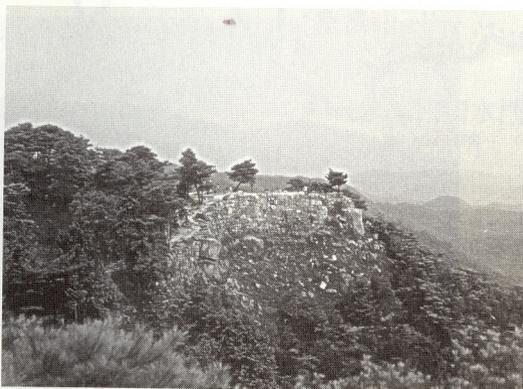




ベットをつれた年輩層の鬼ノ城ハイキング



みごとな鬼ノ城の屏風折の石垣

東門までは約二〇〇メートルほど。東門から第五水門をみると屏風折の石垣で、みごとな岩塊状の石垣を眺める。東門から約五〇〇メートルここから引き返してもいいが、さらに歩道をたどると山稜を半周する感じで北門へ。約七〇〇メートル。北門から約五〇〇メートルで角楼へもどつてこられる。一周約三キロ、展望を楽しみながらゆつくり歩いて一時間三十分。駐車場・ビジターセンターから約二時間の一周コースである。

伝わっている。鬼ノ城もその一つとされる。鬼ノ城の城壁は、山頂部の八合目から九合目にかけて鉢巻き状に巡っている。全周二・八キロの徒歩コースだ。駐車場の脇から遊歩道が続いている。急坂を一気に登って行く道とゆつくりジグザグを切るように登

つて行く遊歩道に分かれ、遊歩道の途中の樹木には、オオバヤシヤグシ、リョウブ、コナラ、アオハダなどの樹名が記された板が下がっている。途中で右に入ると展望デッキのある学習広場などが派出している。一直線に急登する道を登った。登り詰めて平坦になった所で、樹木が切れて。復元された西門が望まれた。

それからほんのわずかの登りで角楼の下に出て、城壁に沿うように西門に登り着く。少し離れていた遊歩道も一緒になって西門にたどり着く。

西門から鬼城山の山稜を行く道は、復元工事のための車などが入っ

ていて歩きにくい。鉢巻き状にまわる外周散策道は、第三水門、第一水門、第二水門などを経て南門へ。西門から約六く七〇〇メートル。南門からは広大な展望が楽しめる。

さらに第三水門、第四水門を経て

総社の北方山中に、みごとな断崖状の城跡をみせる鬼ノ城(きのじょう)、その昔、温羅(うら)がこもつたとされる古代朝鮮式山城で、標高四〇〇メートルの山頂にある石積の城壁や土塁の永さは約二・八キロ、城の面積約三千ヘクタール、全国でも屈指の山城といわれる規模である。

「鬼ノ城は、吉備高原の南縁に位置し、標高四〇〇メートルの鬼城山を中心にして、延べ二・八キロにわたる城壁(版築工法の土塁と列石から構成)が鉢巻上にめぐっている。城壁には四つの城門と五つの水門がつくられ、城内の広さは約三十ヘクタールにおよぶ。なかには複数の倉庫とみられる礎

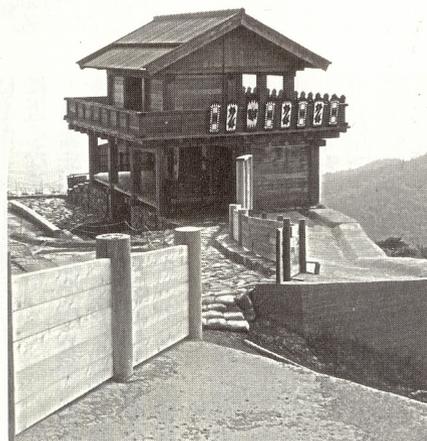
# 鬼ノ城

野口冬人

石建物跡が地面に顔を出している。城門の発掘調査はほぼ終了したが、西門と南門が大きく立派につくられていて、出入り部の大きな扁平な花崗岩の敷石はみる人を圧倒するほどだ(『岡山県の歴史』五十九ページより)

西門には復元された櫓門が立ち、さらに南門跡の石垣に立つと、総社岡山西部の平野が一望にでき、天気の良い時には瀬戸内海からさらに四国の山々まで望まれる。

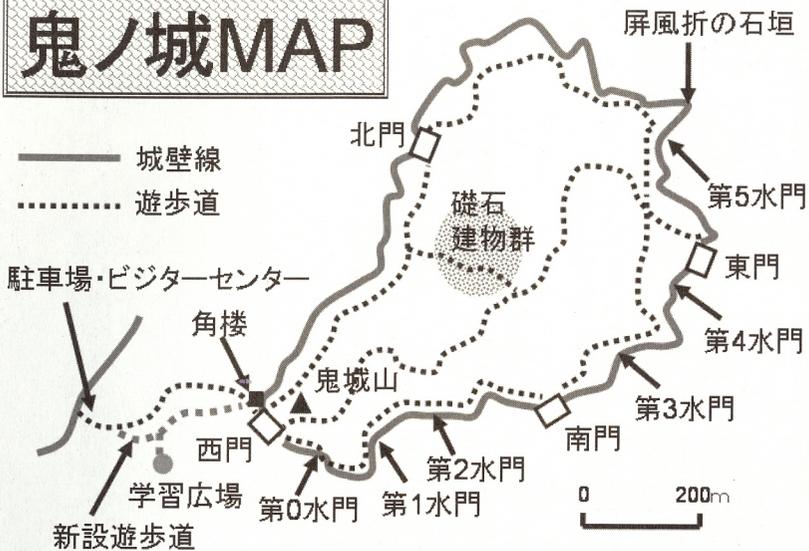
鬼ノ城を歩く。山麓の駐車場までは、車で上つて行ける。駐車場の前



復元された鬼ノ城西門

にビジターセンターがあつて、鬼ノ城の模型や各種資料が展示されている。売店には報告書が数多く置かれてある。トイレはここですませる。鬼ノ城は、標高四〇〇メートル前後の丘陵を続ける吉備高原の最南端にあつて、総社から足守川流域の平野を足下に眺められる。朝鮮式山城とされ、『日本書紀』によれば、天智天皇四く六年(六六五く六六七)の頃、唐・新羅連合軍による朝鮮半島からの進攻に備えるために、西日本各地に要塞としての山城が築かれたと

# 鬼ノ城MAP



## DATA

### アクセス

- ・JR吉備線服部駅から徒歩約5km
- ・JR伯備線総社駅から車で約20分
- ・国道180号国分寺口から北へ約6km
- ・岡山自動車道岡山・総社ICから約8km

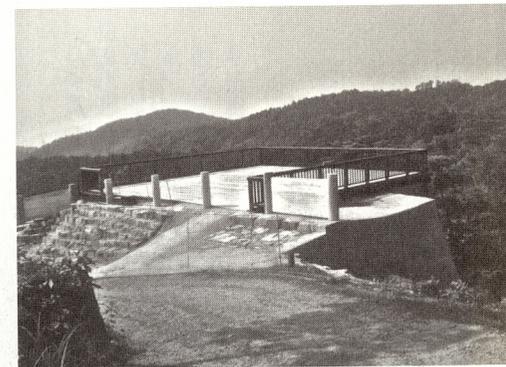
### 問合せ・情報検索

- ・総社市商工観光課  
TEL 0866-92-8277  
URL <http://www.city.soja.okayama.jp/kanko/kankochi/kinojosp>
- ・岡山県古代吉備文化財センター  
TEL 086-293-3211  
FAX 086-293-0142  
URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kinjoiu-top.html>

## アクセスMAP



鬼ノ城遊歩道から復元された西門を望む



鬼ノ城 角楼展望台

〈主なポイント〉  
 駐車場前にビジターセンターがあり、その前の遊歩道をたどる。  
**角楼** 西門へ続く城壁の大きな屈折点に築かれ、城壁の死角をなくするための機能を持ち、西門の防御を高めるために築かれたと考えられる。  
**西門** 発掘データを元に、門の床から棟まで高さ約十三メートル、城

壁の基礎から十五メートルあって、内部は三階建て、堂々とした櫓門を見せる。  
**城壁** 版築工法を用いて築かれた幅七メートル、高さ六メートル、壁面の復元には、古代の版築工法を参考としている。版築工法とは、城壁の前面に支柱を等間隔に立てる。支柱の間に板を積み上げて固定して型枠を形成、その内部に土を入れる

て固める。  
**水門** 谷部に六カ所の水門が設けられている。城内には溜井（水くみ場）があるので、水門は水を取り入れるというより排水の機能と考えられる。  
**鉢巻き状の径路** すり鉢を伏せたような山の形をした頂上を、一周径路が鉢巻状に辿っていて、一周約三キロ。西門↓南門↓東門↓屏風折の石垣↓北門↓角楼と続く。中央部には礎石建物群跡があって、食料貯蔵庫、のろし場跡などがある。  
**南門** 十二本の角柱で構成され、正面二間、奥行一間の城門で、中央の一部が石葺きの通路になっている。  
**東門** 正面一間、奥行二間の六本の丸柱で構成されている。壁面の一部は石垣になっている。尾根筋近くに位置している。  
**北門** 鬼ノ城の背面（北側）に位置し、裏門になっている。間口一間、奥行三面の八本柱で構成されている。門礎は角柱を使用しているが、他の柱はすべて丸柱で、床面の石敷中央には、石組みの排水溝が造られている。